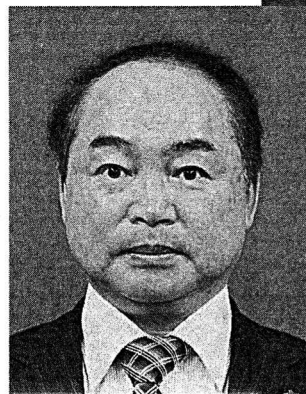


特別寄稿



『生徒諸君は凄い、君たちは最高だ！』

〜今年度の大槌高校を振り返って〜

校長 高橋 和夫

表題は達増拓也岩手県知事が避難所を訪れた際にかけてくれた言葉で、最高の賛辞と非常にありがたく思っている。

平成二十三年三月十一日（金）十四時四十六分発生のマグニチュード九・〇の大地震とそれに続く巨大津波は沿岸地域に甚大な被害を与え自然の恐ろしさをまざまざと見せつけた。大津波は街を破壊し多くの人たちの尊い命と生まれ育った家々を奪い去った。そして、多くの人たちを不幸のどん底に陥れた。被災した人たちは避難所生活を余儀なくされ、本校は町内では最大級の避難所となり、ピーク時は一、〇〇〇人近い町民が身を寄せた。学校は避難者、安否確認のために訪れた人たち、救済物資の提供や炊き出し等で支援に来てくれた人たち、マスコミ関係者などでごった返

し、まるで戦場のようなであった。避難所となった本校では生徒たちが率先して避難者のためによく働いてくれた。どれだけ生徒たちに助けられたことか。学校再開後も、生徒たちは辛く悲しい思いを抱えながらも勇気と希望を持って前向きに頑張ってきた。生徒たちの笑顔や元気に取り組む姿にどれだけ励まされ、感動を与えられたことか。

避難所でのボランティア活動から今年度の活動を振り返ってみたい。ただし、ここに書く内容は生徒たちの取り組んだ活動の全てではない。私の知らないこと、記録と記憶に残っていないものも多々あると思うが、割愛することを ご容赦願いたい。

① 布団・毛布の運搬と配布、石油ストーブの設置

三月十一日、本校には生徒・職員を含めて約五〇〇名の町民が避難した。紫友館にあった約四十組の布団を体育館に運んで避難者に配った。それだけでは全く足りなかつたので毛布代わりに暗幕やカーテン、マット代わりに段ボールも使用した。また、学校にあった十数個の石油ストーブも二つの体育館に設置してくれた。

② 避難者名簿の用紙作り

避難所にとって避難者名簿の作成は、無事に避難した人たちを外部に知らせるためにも極めて重要であった。停電でコピー機が使えなかつたので、カーボン紙をコピー用紙の間に挟み複写して名簿用紙を作った。

③ ローソクの配置

インターアクト部が多数持っていたロー